

明治期における仁徳陵の樹木と植林について

(明治40年の御陵沿革取調書からの要約)

メモ) 鉄本 2020.09.25

1. 草木の種類

<樹木>

松 杉 ヒノキ 檜 藪肉桂 (やぶにつけい クスノキ科の常緑高木 高さ10m以上)

榊 柏 樟 (くすのき) モチノキ 椿 槇 (まき) ハゼノキ

<草類>

葛 藪蘭 (やぶらん) 藪苺 (やぶいちご)

【藪肉桂の花と葉の画像】



【ハゼノキの画像】



【藪蘭の画像】



2. 開墾と植林

明治10年 杉、松、檜などを試植 同時に 竹、菅を伐採

同21~23年 34,526坪を開墾し、ヒノキ、杉、檜、松の苗約192,645本を植栽

同28年 松、ヒノキ、杉を15,000本 樟の苗500本を植栽

~~以降、毎年、下草刈り、枝打ちなどの森林管理を実施~~

~~明治35年頃より、ヒノキ、杉に害虫が発生し、年々数百本の立ち枯れ発生~~

~~有効な病害対策がなければ、全滅の恐れがあることを報告~~

~~濠に菱が蔓延し、夏場には枯れて悪臭が発生していることを報告~~

明治40年頃の樹種と本数

	墳丘	第1堤防	第2堤防
松	4,158本	4,315本	1,414本
杉	34,700本		
ヒノキ	10,870本		
備考	松は殆どが稚松	樹齢は30年以上	殆ど樹齢20年以下

以上